

最近、キノコが豊作であるというニュースが飛び交っていますが、毒を持ったキノコもたくさん生えているそうです。そしてキノコ名人と呼ばれる人でもなかなか見分けが付きにくくなってきているとのことでした。毒キノコも食べてしまっただけでは遅いのです。毒を持っているものは分からない所に潜んでいる事が多いです。気づいたときには手遅れになっている場合もあります。私たちの体だけではなく、心も同じです。心も周りからの影響や敵からくる毒によって悪くなってしまいます。過去にも心のデトックス（解毒）という事をお話ししましたが、心を正常に保っていくために解毒しなければいけません。体の病は休むことにより回復してくるものですが、心の病は自分の気づかないところに働いて、私たちが生きていく上で大切な目的を忘れさせてしまいます。心に毒が入ってきていると、素直にありがたうと感謝を表す事ができにくくなります。それは人の目や態度などを気にしているからです。それを繰り返していると私たちはだんだんと良い部分が削がれていっているかもしれません。私たちは神の器として、目的があって造られています。しかしその器に穴が開けられてしまったために、神の目的が次々と捕られているのです。それは結果に目を向けてるようになってしまっていると本来の目的を果たす事ができません。私たちは今、周りの人との関係の中でお互いに良い方向へと進んでいるでしょうか。私たちの本来の役割が果たせるようになれば、自分も周りも良い方向へ進んでいくことができます。それをチェックする事として、私たち自身が周りの人たち（家族、友達、同僚など）と一緒にいる事を喜んでいるでしょうか。周りの人と全く同じ人はいません。お互いに違うからこそ、違いを認め助け合い、補い合いながら進んでいくことが目的となればいいのです。その結果として幸せになるのです。日本の教育を例えにしてみます。日本の教育では、学校や塾などの評価が良い大学に何人合格したのかという事が基準になっています。しかし高校は大学へ行くためだけに行くのでしょうか。それは違います。本来は成績だけでない多くのものを学ぶために行っている事は分かっています。このように目的がすりかわっています。これだけではありません。私たちは自己矛盾していることが多々あります。それは目的を見失ってしまい、結果を求めいる生活になっている事が原因です。私たちはこれに注意をしなければなりません。自分が何のために生きているのか、私たちの目的をもう一度思い出してみましょう。その目的を果たすために、日々の目標があり、通過するポイントが見えてくるのです。それが見えていないと、1日1日が何となく働き、何となく時間が経過するようになってしまいます。そうすると感謝をする生活ではなくなります。1日の目覚めに感謝する、新しい朝に感謝する、食事ができることの感謝、人との出会いにも感謝ができません。私たちは目標と目的をしっかりと見据えていきましょう。そして目的が結果とすり替わっていないかを注意深く見ていきましょう。結果を求めてしまうとどうなるのでしょうか。例としてあげている教育から見てみます。良い大学へ入る事が目的となった場合、合格し入学する事ができた後、そこで何をやるのかが分からなくなってしまいます。大学へ入ることは私たちの目的を果たすための目標（通過点）にするべきことなのです。これは大学へ入る事がその人の目的ではなく、目的を見失った故に、結果を求めてしまいました。私たちは世間体や人からの評価を気にして生きているのは結果を求めている生き方になってしまいます。私たちクリスチャンは神の計画を全うし、天へ帰る時に、最終的な評価を受けます。しかし私たちが生きている中で神の目的にむかって進んでいけばその都度、小さな結果は付随してきます。ですから私たちは驕らず、謙って歩むことが大切なのです。（ルカ24：1～36）2人の弟子たちはエルサレムからエマオに向かって歩いていました。その時、復活したイエスキリストとともに歩んだところです。この2人はなぜエマオに向かっていたのでしょうか。2人の弟子たちはイエスキリストと歩いている中で、私たちの心は燃えていたのではないかと行って、エルサレムに戻っています。その事からエマオに向かっていた弟子たちはエルサレムにいる時、十字架で死んだイエスキリストを見て失望してしまっていたのではないかと。そしてエルサレムから逃げていたのではないかとおぼやかれます。弟子たちは目的を失ってエマオに向かって歩んでいました。その目的とはイエスキリストがこの地上にきたのはローマ帝国を滅ぼし、新しく国を興すことでした。ところがそれは十字架の死によって失ってしまいました。イエスキリストは十字架と復活については何度も語り、イエスキリストがこの地上に來られた目的も伝えていました。しかし、2人の弟子たちは失望の中にいました。その2人を励まし、一緒にいてほしいと願えば、食事を共にしました。これは現代にも聖餐式として教会においても行っている事の初めであるエマオの晩餐と呼ばれている箇所です。弟子であるイスカリオテのユダが裏切った理由は、イエスを十字架につけるように追い込めば必ずユダヤを力で制圧してくれると思ったからでした。しかしイエスキリストはそのまま十字架上で死んでしまったために失望や後悔するだけで、悔い改めることなく自殺してしまっただけでした。ユダは結果主義に陥っていました。結果を求めたゆえに悪い結果となってしまいました。目的を見失い、結果を求めていると結果を得ることができない事が分かります。これは現代の私たちも同様です。毎日の生活の中で、小さな結果ばかりに目を向けているのであれば、目的を見失った生活になってしまいます。そのまま生きていると神の計画を全うすることができなくなってしまいます。聖書にヒゼキヤ王が出てきます。ヒゼキヤ王の父アハズは悪い王でした。偶像礼拝を続けていた王でした。反面教師としてヒゼキヤ王は良い王として名を残しています。（Ⅱ歴31：20～21）「ヒゼキヤはユダ全国にこのように行い、その神、【主】の目の前に、良いこと、正しいこと、誠実なことを行った。彼は、彼が始めたすべてのわざにおいて、すなわち、神の宮の奉仕、律法、命令において神に求め、心を尽くして行い、その目的を果たした。」この「目的を果たした」と聖書に書かれているのはヒゼキヤ王とイエスキリストだけです。その後、ヒゼキヤは病気になるますが、祈りによって奇跡が起こり、命が15年延ばされています。その15年間、彼は高ぶるのですが、悔い改めています。しかしマナセ（偶像礼拝をする悪い王）を生み、宝物倉を他国の使者に見せて、後々になり侵略されるきっかけを作ってしまう。脱線しないために①自分の道から逃げない。エマオの途上で逃げてしまっていた弟子たちももう一度戻りました。そして集まっていた中にイエスキリストは現れて赦しを与えています。自分の道を理解しているでしょうか。それから逃避していないでしょうか。神の前に決めた約束から逃げないでいけません。私たちの人生は良いことばかりではありません。失敗をする、良い評価が返ってこない、私たちは不平不満を漏らすようになり、逃げてしまいます。自分の目的を壊す、逃げてしまうのは自分自身の決断です。他人でも悪魔でもありません。注意が必要です。私たち自身が自分の道から逃げないようにしましょう。脱線しないために②主といっしょにいきましょう。2人の弟子たちはイエスと一緒に歩んだら元気になりました。私たちは孤独だと思ってしまうから逃げてしまうのです。良い時も悪い時もいつも一緒にいて下さるのがイエスキリストがしてくれたことです。弟子たちは復活したイエスキリストを目の前に見ているにも関わらず、気づきませんでした。彼らは十字架で死んでしまったイエスをみて、自分の思いとは違っていたために失望してしまいました。結果ばかりに捕らわれていると心が鈍ってしまう事が分かります（ルカ24：25）それは結果を求めていると結果が得られず、挫折が起こり、失望に終わるからです。ですから私たちは心を鈍らせてはいけません。いつも主と一緒に歩み、心が鋭くなっていきましょう。（箴言16：1～5）たましいの直打ちというのが目的となります。神さまは目的を持って行動しているのかをみています。脱線しないために③驕るな『感謝』をする。驕るとは「あたかも自分やったこと」をさします。そして感謝を忘れていませんか。私たちは生きている中で、いろいろと感謝をするようになります。命があることも、目覚めることができたことも。そして私たちが驕っているのかを区別するには1番近い人に対して感謝を表せているのかということです。一番近くにいる人の言葉を素直に受け入れられない事から脱線が始まります。その状態ではイエスキリストの声にも敏感になることはできません。私たちはしっかりと目的をつかんで歩む必要があります。もう一度確認し、主と一緒に歩んでいきましょう。神の恵みは私たちが逃げずに歩んだ後から多くの人に届いていきます。結果を求めず、目的を果たすために進んでいきましょう。（要約者：平澤一浩）